

防空壕で消失免れる！ 70年前の政府発行 週報紙「写真週報」等の現物展示 平和パネル展「3.10 東京大空襲」開催中！

【概要】

この平和パネル展は、空襲体験者でありかつて中学校教師であった西村信友^{のぶとも}氏から資料を提供していただき、開催に至りました。

「写真週報」は、内閣情報局から昭和 13 年（1938 年）2 月 16 日に創刊号として発行され、昭和 20 年（1945 年）7 月 11 日に第 374・375 号の合併号として終刊されました。そのうち、昭和 19 年（1944 年）の第 323 号から昭和 20 年（1945 年）の第 374・375 号の終刊号まで 42 部を西村さんは所持してきました。これらは自宅の防空壕で保管していたため消失から免れました。今となっては大変貴重な資料です。西村氏自身も、第 367 号の写真週報の表紙に「戦う学徒」として工場の仲間たちと一緒に載っています。

「写真週報」の他に、「アサヒグラフ」、「毎日グラフ」などの終戦前後に発行されたグラフ誌も展示されています。

また、空襲後の東京の惨状を写したパネルも西村氏から提供されたものです。この「平和教育教材パネル」（写真：石川光陽氏、解説：早乙女勝元氏）は、西村氏が中学校の教師であった頃に、中学生たちに自らの空襲体験談を語りながら使用した平和学習教材です。

共に、今から 70 年前の太平洋戦争末期の戦時下の様子や米軍の B29 爆撃機により惨状を呈した空襲後の東京の様子が直接伝わってきます。

平和パネル展では、資料提供の西村氏から東京大空襲の体験談や写真資料の解

説をしていただきます。

ぜひ、この機会に平和パネル展「3. 10 東京大空襲」を御覧いただき、あらためて、戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを感じ取っていただければと思います。

【西村信友氏プロフィール】

1930年（昭和5年）1月10日、江東区深川にて出生。実家は空襲で焼けたため、空襲後は飯能市の祖父・祖母の家に移住する。旧制中学校卒業後、東京外地専門学校（現東京外国語大学）に入学。卒業と同時に埼玉県の中学校教師となり、その後東京都の瑞穂中学校に異動し英語教師として教鞭をとる傍ら、生徒達に東京大空襲の体験談を語り、平和教育に心血を注ぐ。定年後は学校以外の各地での講演会や公民館での平和学習講演会などで、自らの空襲体験を通して、戦争の悲惨さ・平和の尊さを語り継いできている。

■東京都では、3月10日を「東京都平和の日」と制定しています。

【展示期間】

3月10日（火）までの午前9時～午後8時 ※月曜日は休館日。

【展示解説日】

3月1日（日）午後2時～4時

【解説者】

西村信友氏（元中学校教諭）

【展示会場】

福生市民会館 展示スペース JR牛浜駅徒歩5分

【主催】

福生市公民館

<問合せ>	福生市公民館事務所（担当：井上、小笠原）
電話	042-552-2118
ファックス	042-552-2228
E-mail:	F-hall@city.fussa.tokyo.jp